

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 平成18年 1月 26日

I 概要

実践団体・担当者名	特 定 非 営 利 活 動 法 人 都 市 防 災 研 究 会 (担当者：神川 ときよ)	
連絡先	電話：045-663-5641	
プランタイトル	「行政の手の届きにくい災害弱者への支援」	
目的	行政側の防災教育の手が届きにくい幼稚園・養護学校・福祉施設に手をさしのべ防災教育の普及を図る。大災害時に児童・保護者・先生方が落ち着いて行動が出来るように色々な方法で、防災教育の普及を図る。	
プランの概略	1. 大磯の聖ステパノ学園（エリザベスサンダースホーム）に於いて小・中・高生並びに教員・保護者を対象にして「つなみ」についての学習と、実際に海に出て「つなみ」が押寄せて来た時を想定し避難訓練。 2. 社会福祉法人白根会白根学園第2成人寮に於いて、ダウン症・その他知的障害者と保護者・職員を対象にした訓練と、職員に向けての講演。 3. 横須賀市にある学校法人木村学園「ケンコウ幼稚園」に於いて、児童・保護者・職員に対し、紙芝居・寸劇・避難訓練、三角巾講習・子供を親に引き渡すことの訓練の実践を行う。幼児に対しての防災教育は遊び感覚で、ゲーム形式を取り入れた。	
プランの対象と参加人数	1. 小・中・高生及び職員・保護者 約140名～150名 2. 園生・職員（関連施設の職員を含む） 約140名～150名 3. 園児・保護者と職員	
実施日時	1. 平成17年9月22日 2. 平成17年11月10日 3. 平成17年11月26日	
主な実施場所	1. 大磯聖ステファノ学園（エリザベスサンダースホーム）・大磯海岸 2. 白根学園（横浜市白根） 3. 横須賀ケンコウ幼稚園	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	かながわ女性防災
	連携したきっかけ・理由	・姉妹団体 ・常に協力体制を持ちお互いに助け合っている。 ・我が会の会員もメンバーになっている。
	連携団体へのアプローチ方法	同上
	連携団体との打合せ回数	・現地を確認する 6時間×3（各イベント毎に1回） ・相手方の意向や実態を聞き、それを踏まえた上でプランを作成 5時間×3 ・稽古（寸劇） 2時間×6 ・紙芝居作成 4時間×4 ・資器材調達 4時間×3
	連携団体との役割分担	かながわ女性防災には寸劇・三角巾講習を分担・打合せ。NPO法人都市防災研究会には企画・打合せ・受け入れ側状態把握・メールのやり取り・印刷・資器材調達・プラン作成・ニュースレター作成。

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	1. 20名（当日のスタッフ・事前準備スタッフ） 2. 23名（同上） 3. 32名（同上）
	外部スタッフの総人数	1. 21名（当日のスタッフ・事前準備スタッフ） 2. 0名 3. 13名（同上）
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 神川 ときよ（NPO都市防災研究会代表理事） 企画 神川 ときよ 中村 栄助（NPO都市防災研究会事務局長） 戸川 優子（かながわ女性防災代表） 渉外 神川 ときよ 脇口 育雄（前NPO都市防災研究会代表） 西尾
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	17年5月1日 ～ 17年7月30日
	立案時間	2時間 × 5回 3時間 × 5回
	上記のうち打合せ回数	10回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	相手方の希望を聞き、状態に合わせプランを立案した。	
プラン立案で 苦労した点	職員も戦後生まれの人々で、戦争の経験も災害の経験もない若い方たちなので、それも頭に入れながら立案した。	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	45名
	外部スタッフの総人数	15名

	主なメンバーの 役職・役割	責任者：中村栄助（NPO：都市防災研究会 理事事務局長） 企画演出：佐藤栄一・神川ときよ・中村栄助 会場準備：中村栄助；川辺裕子（当会員） 渉外：中村栄助；脇口育雄（当会員） 資料作成：中村栄助他会員15名 広報：脇口育雄 事務：中村栄助
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年5月 ～ 11月
	準備総時間	およそ150時間
	上記の内打合せ回数	およそ25時間
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	なし
	どのように働きかけたか	なし
	結果	なし
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	地域への挨拶・打合せ 6回
	どのように働きかけたか	周辺地域に対象先と連携して働きかけをした
	結果	特になし
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	対象先保護者・対象先；先生・事務局
	どのように働きかけたか	行政関係先と対象団体先を経由して働きかけをした
	結果	賛同を得て積極的に協力をして頂いた
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	機材： スクリーン、プロジェクター、PC、展示スペース用机、 寸劇用資材、拡声器、誘導用旗、紙芝居スタンド、ポス ター、パンフレット、ニュースレター、文具、三角巾、 紙芝居 教材： パンフレット、ニュースレター、紙芝居

	入手先・入手方法	機材：購入 教材：購入
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	視覚に訴え、説得力を増すため。
参加者の募集	募集方法	面談にて直接折衝
	募集期間	2005年6月1日 ～ 7月30日
	参加予想人数	150名×3
	実際の参加人数	約1000名 (3所開催)
	募集方法の成功点	先方と面談の上、当方の防災教育方針を示し、先方の賛同を得た。 継続して本活動をやっていききたいという申し出を受けた。 06年度も継続して実施する方針
	募集方法の失敗点	特になし
準備で苦労した点・工夫した点		1. 幼稚園：幼児対象に内容をやさしくした点 2. 片親・登校拒否児童については長時間の防災教育について苦労をした。この点については 3. 幼稚園児対象の新規紙芝居作成 ：災害時に役立つ、対策とは。各家庭単位で独自の災害対策を作ること。 ：各環境、住宅の状況、災害時に、自分がどこに居るかで、その対策が役に立つのか？が決まってくる。 ：各家庭の自助の部分を強調した。 ：30代：40代家族対象。

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月			
2005 1月			
2月			
3月			
4月			
5月	当団体内において企画立案の打合せを行う。	5/20・22・25・6/2・7・13事前準備打合せ	
6月	募集活動	6/1・5・10・18 数次に亘り先方訪問の上、企画申し入れをした。	
7月	募集活動	7/3・12・13・21・23 先方とのネゴシエーション。	
8月	準備		
9月	聖ステファノ学園防災訓練	9/1～21 最終準備	9/22 本番
10月	白根学園・ケンコウ幼稚園最終準備		
11月	11/11 白根学園防災訓練並びに防災指針の作成教育 11/26 ケンコウ幼稚園防災訓練		本番 本番
12月			
2006 1月			

V実践の詳細 【B. イベント】（短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル	津波と防災訓練			
実施日	9/22、11/11、11/26			
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	防災訓練の事前打合せ	防災訓練	津波避難 児童の父兄への引渡し	反省会
生成物		課題の書き込まれた模造紙 パワーポイント		
進め方 （箇条書き）	・ 後援者の紹介並びに発表内容概略説明 ・ 寸劇紙芝居の設営と実施準備	・ 講演 ・ 寸劇 ・ 紙芝居 ・ 炊き出し ・ 三角巾使用訓練	・ 海外に学童同伴のうえ実際の津波避難実施（海岸より高台への避難必要時間をカウント） ・ グラウンドにて父兄待機、学童校舎より避難の上、姓名・本人確認のうえ確実に父兄に学童を引き渡し	・ 昼食をはさみ、先方との意見交換、課題の洗い出しを行う。
ツール（特別に用意したもの）	プロジェクター、ポスター、寸劇用具設営		避難誘導旗、拡声器	ホワイトボード、模造紙、マジック。
場所	1. 聖ステファノ学園 2. 白根学園 3. ケンコウ幼稚園	先に同じ	先に同じ	先に同じ

VI 実践後

参加者への アンケート結果	反省会において意見交換をし、改めてのアンケート調達はせず。	
成果として 得たこと	・ 実践的訓練に、各場所ごと実態に合った訓練 ・ 実施後反省点 ・ 次回の工夫 ・ 課題の捻出 ・ 継続した訓練をすることを約束	
成果物	（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。） ・ 企画書作成 ・ 開催案内書作成 ・ 当日ニュースレター配布 ・ 三角巾配布 ・ 災害訓練実践写真を提示	
広報方法	広報した先	実施三箇所
	広報の方法	面談の上、直接折衝
	取材にきたマスコミ	なし
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	当会ニュースレターに於いて記載案内を行う。
	成功点	・ 実践にそぐった訓練 ・ 場所ごとの工夫を加える
	失敗点	
全体の感想と 反省・課題	実践的訓練になおの工夫を加えることが必要。（学童一人一人に防災の大切さを認識させる）訓練を重ねることが非常に必要である。	
今後の予定	来年度以降の進め方	来年度も工夫を加え継続防災訓練を行う。
	是非実施してみたい 取り組み	学童の防災に関する感想・意見を取りまとめる。 保護者・先生の防災認識向上。
自由記述	重要なことは、そこの団体・学園各々に沿った防災訓練に近づけることが肝要。	

